



県下各地の 気になる取り組みを紹介



原田たかし 活動報告



別府市でペット同伴専用避難所を試行的設置

災害などの非常時に、危険な場所から避難することは命を守るために一番大事なことです。しかしながら、これまで、ペットを連れた被災者は避難を諦めたり、車中生活を選択したりするケースも報告されています。

このような状況を解決するため、別府市では飼い主がペットと一緒に避難生活を送る「同伴避難」専用の避難所を試行的に設置しようと取り組んでいます。計画によると、開設場所は野口元町の野口ふれあい交流センター体育館で、体育館内に2m四方のテント25張りを設置し、1つのテントに1世帯で、テントの中に入れたケージの中で飼育管理を想定。

ケージや餌、水、首輪、トイレ用品など避難生活に必要な物品は飼い主が用意したり、ケージに慣れさせ、むやみにほえないようにするといったしつけも求められますが、多様なニーズに応えられる避難所づくりは大切だと思います。

【写真は別府市防災危機管理課より提供】



JR日田彦山線でBRT運行始まる

8月28日(月)、2017年の福岡・大分豪雨で被災したJR日田彦山線の不通区間に導入されたバス高速輸送システム(BRT)【愛称「BRTひこぼしライン」】の運行が始まりました。

BRTで復旧させる日田彦山線の添田(福岡県添田町)～夜明・日田(日田市)間で運行します。利便性を高めるため日田市中心部にも乗り入れ、停留所は従来の3倍に当たる36カ所を設置。約40kmのBRT区間のうち、一部区間は線路跡に整えた専用道を走行し、他の区間は一般道を走ります。バスは、電気自動車4台とディーゼル車2台を使用するそうです。

この路線の復旧の議論は長期化していましたが、被災から3年後にJRや自治体でつくる復旧会議でBRTの採用が決まりました。

【右画像はJR九州のHPより引用】

地域公共交通は、地域の持続に欠かせないものです。自治体や企業の話し合いにより、地域の公共交通が維持できたことは良かったです。



大分市で「パートナーシップ宣誓制度」導入

大分市は9月から、性的少数者のカップルを公的に認める「パートナーシップ宣誓制度」の運用を始めました。法的効力はないものの、「宣誓書受領証」を交付し、一部の行政サービスの利用を認めています。大分市では「市営住宅の入居申し込み」や「パートナーによる保育施設の入所申し込み」などができるようになるそうです。

同様の制度の導入は、県内では臼杵市、竹田市などに続いて6例目で、九州の県庁所在地で同様の制度が出そうとのこと。

窓口となっている大分市男女共同参画センター(たびねす)を訪ね、センター所長にお話をお聞きすると、「申請されたカップルが喜ばれている様子を見て私たちも感激しました。生きづらさや不安を感じる人が少しでも減ってくればうれしいです。」と話されていました。

私も「多様性を認め合い、共に生きる喜びを実感できる社会」の実現に向け、この制度の導入に賛成です。



宣誓書受領証

別府市で「Art Fair Beppu 2023」開催

別府市では、9月に混浴温泉世界実行委員会が主催する現代アートの「Art Fair Beppu 2023」展が開催されました。2025年の本格開催に向けたプレ事業として開催され、若手を中心とした気鋭のアーティスト45組による計500点以上の作品を展示。



北浜公園に設置された米国出身の現代アーティストトム・フルーインさんのモニュメント「ウォータータワー 10」は、感染対策用のアクリル板や看板の廃材を使って作られた高さ7mの幻想的な作品です。

別府国際観光港会場にも多くの観覧者。中でも市内在住の新宅和音さんの思春期の葛藤などを表現した絵画はとても印象的でした。

多くのファンを持つ現代アートの作品展は、新たな観光資源と言えます。



左「今すれちがった人」

右「図鑑の花」

いずれも新宅和音さんの作品